

第2次平戸市総合計画
第1回
明るく元気なまちづくり部会

議 事 錄

とき：平成29年11月22日（水）13：30～16：00
ところ：平戸市未来創造館 1階ホール

開 催 日 時	平成 29 年 11 月 22 日 (水) 13:30~16:00
開 催 場 所	平戸市未来創造館 1 階ホール
出 席 委 員 (50 音順、敬称略)	今川 亮生、相知 清隆、柿添 圭嗣、西 サチ子 (4名)
欠 席 委 員 (50 音順、敬称略)	坂本 鏡心、村上 則夫、森 健司 (3名)
事 務 局 (財務部企画財政課)	小出企画財政課長、藤山企画統計班長、浦川企画統計班主任主事 鴨川総務課長、度嶋福祉課長、尾崎保健センター事務長、 入口学校教育課長、平松教育総務課長、岩永生涯学習課長
次第 1. 開 会	進行：浦川
2. 企画財政課長 あいさつ	小出企画財政課長
3. 部会長の選任 について	相知委員を部会長として選任。
4. 議 題 (1)第 1 回審議会 からの経過報告	(事務局から説明) 質疑・意見等無し
(2)第 2 次平戸市 総合計画の基本 計画（案）につ いて ①基本プロジェク ト 2 ひとをそ だてるプロジェ クト	(事務局から基本プロジェクト 2 の説明)
委 員	子育てについて、以前の会で、地域で組織づくりをしないといけない

	といった意見が出ていたと思いますが、そういうこともここで考えていくのですか。
事務局	私はその会議に出ていなかったのですが、子育ての組織づくりというご意見だったのですか。
部会長	<p>子育てを地域で行えるような取り組みをしましょう、そのためには組織が重要というご意見だったと思います。そこに関しては、例えばファミリー・サポートが10月から始まっており、こここの「やるばい指標」にも提供会員数が目標値として挙がっています。また、子ども・子育て会議の中でも、そういう仕組みをつくりましょうという話をしており、そちらの施策の中にもファミリー・サポートが入っています。</p> <p>このように、子育て支援の組織は着実にできてきてています。詳細部分については、子ども・子育て会議で決めていき、総合計画のほうでは大きな枠を示していくという位置付けになるので、ここについてはこういう書き方でいいのではないかと思っています。</p>
事務局	<p>組織づくりに関しては、「ファミリー・サポート・センター事業の充実」を主な取り組みの4つ目に挙げています。これは、今年度から取り組んでいる事業で、社協さんに委託して、今年の10月に設置をしたところでございます。今後におきましても、子育て支援については、いろいろな形で充実をしなければいけないと考えており、【市民の満足度】の指標に「子育て支援対策の充実」を掲げています。近年の実績としては、第2子目は半額、第3子以降は無料にするなど、医療費の現物支給といった形で取り組んでおります。</p>
委員	以前の会議の中で、生涯学習の勉強を、平戸を担う力にという意見が出ていたと思いますので、【平戸市のいま】の○の2つ目の「今後生涯学習を推進し」の後に、「さらに、平戸を担う人材を確保していくためには」と入れてはどうでしょうか。そうすれば、後の施策2も生きると

	<p>思います。</p> <p>右側のページの施策の1～3の文末について、「図ります」とあるのですが、少しばやけた感じがするので、全て「推進します」でそろえたほうがいいように思います。</p> <p>施策3の①「広報の充実」について、市民への啓発ということも必要な気がします。広報活動ではよくホームページとかネットとか言われていますが、平戸市民でそういうものを使っている方は半分もいないと思います。まだ回覧板の社会なのです。その中の啓発の工夫、啓発の推進といったことを追加で入れたらいいと思いました。</p>
事務局	<p>1点目のご意見について確認させていただきたいのですが、2つ目の○の「今後生涯学習を推進し」の後に、「さらに、平戸市を担う人材を確保するには」と入れるということですか。</p>
委員	<p>はい。以前の会議の中で、生涯学習をしても地域の人材は育たないのではないかといった意見も出ていたと思います。施策2に「平戸を担う、人材をつくる」とあるので、それを生かすために「今後生涯学習を推進し、さらに、平戸市を担う人材を確保していくために」と入れておけば、内容的にもしっくりいくし、これまで積み上げてきた話し合いが生きるのではないかと思いました。</p>
事務局	<p>今頂いた3点のご意見については、いったん持ち帰って、第2回までに整理させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>施策3の②「市ホームページの充実」について、市ホームページをどのように充実するのですか。一方、⑤には「フェイスブック等SNSの活用」と具体的に書かれています。もし、そのように具体的に書くのであれば、②についても「市ホームページに○○を入れるなどして充実する」のように書くべきではないでしょうか。また、SNSには他にツイッター等もある中で、フェイスブックだけを出している点も疑問に感じ</p>

	ます。
事務局	<p>周知については、とにかくでき得る限り、あらゆるツールを使って、なるべく多くの方に情報を提供したいと考えております。ホームページ、フェイスブック、SNSといった最新のツールや、先ほど言われたような、旧来からの紙ベースでの回覧など、幅広くいろいろな手段で伝えたいという思いで、この記載となっています。「市ホームページの充実」についても、いろいろな工夫がとられると思いますので、ご意見を参考にして進めてまいりたいと思います。</p>
委 員	<p>【平戸市のいま】の2つ目の○の「人権問題は依然として残されています」の前に、「人権についての偏見や敬遠の態度とともに」と入れてほしいと思います。人権については、難しいとか、ややこしいというイメージを持って敬遠されがちなので、そういったことを入れておくといいのではないかと思いました。</p> <p>【平戸市の未来】の文章について、「常に人権意識を持った行動により」の後に「差別」だけを書いているのですが、「偏見」もかなりあると思うので、「偏見や差別のない」としてはどうでしょうか。</p> <p>施策1の①「人権教育の啓発」について、ここには「学ぶ場の拡大」とか「学びの広がりの推進」といったことも要るのではないかと思います。</p> <p>施策2の③「児童・生徒に対する人権教育の推進」でも、「学び合う場の拡大」といったことが入るといいと思います。各学校の中では人権教育をやっていると思いますが、さらにいい実践をしている方たちがいるので、それを学校の中で広めたり、学校同士での情報交換とか学び合う場も必要と思うからです。例えば、夏休み中に全市的な勉強会をするなどできたらいいのではないかと思っています。</p> <p>最後に質問ですが、人権教育については平戸市の人権教育の基本計画もありますが、その活用は今、どうなっているのですか。</p>

事務局	人権の基本計画については、総務課で所管しています。これまでどういった活動をしてきたかについては、この場では答弁でき兼ねますので、次回の部会の折に報告させていただきたいと思います。
部会長	学びの場といった文言を追加するという意見については、次回までに検討していただくということでよろしいですか。
委 員	それで結構です。
委 員	<p>【平戸市の未来】の文章について、「これまでと変わらない」という表現がぼやけた感じがします。例えば「これまでと変わらない豊かな日常生活」とか、「これまでと変わらない穏やかな日常生活」などとしたほうがいいのではないかと思いました。</p> <p>施策1の①について、「現状への認識の共有」という部分が理解しにくいのですが、どういうことなのでしょうか。</p>
事務局	<p>「現状への認識の共有」については、広く市民を対象に、戦争・核問題への認識を共有する取り組みとして、庁舎、支所、出張所、公民館などで、原爆の悲惨さを伝えるポスター展を行ったり、平和への啓発活動として、庁舎への原水爆等の掲示、核兵器廃絶に向けた署名等の活動を行っています。戦後、かなりの年数が過ぎ、そういう意識が薄れてきていることから、再度、戦争の悲惨さを認識していただきたいという想いで、この記載とさせていただきました。</p>
委 員	<p>そういうことであれば、それが分かる表現を入れたほうがいいと思います。「現状」だけでは、捉え方がさまざまあって分かりづらいです。分かりづらいから、やるばい指標も満足度も出てないのだと思います。例えば「悲惨さ」と入れれば、それをどれだけ認識できているか、それを今後どこまで上げるかという形で、指標につなげていくことができます。今の表現だと、ただ漠然と終わってしまうような気がします。</p>

部会長 事務局 委 員 委 員 事務局	<p>少し具体的にというご意見だと思います。</p> <p>検討して、次回、報告させていただきます。</p> <p>1点目の「豊かな」「穏やかな」等の文言の追加についても、次回までに検討させていただきます。</p> <p>【平戸市の未来】の文末が「送っています」と、ら抜き言葉になっています。「送られています」のほうがいいのではないでしょうか。</p> <p>施策1と施策5の主な取り組みに「学校評価の公表」とありますが、例えば、行政としてどれだけ支援をしたのか、学校任せではなくてどう関わったかといった内容も含めて公表してほしいと思います。今、学校には各学校独自の課題があり、市の教育の方針もあると思います。その中で、学校現場の頑張ったことと併せて、行政がどう支援したかということも公表すれば、学校が勝手にやったみたいな感じに取られないと思います。</p> <p>施策2の①について、「特別な教科・道徳」の「特別な教科」というのは何ですか。</p> <p>施策3の主な取り組みについて、①～⑤まであるのですが、順番としては⑤の「授業改善の推進」は1番目か2番目に入るものではないでしょうか。その改善を受けて、ＩＣＴや英語があって、最終的に学力という流れになるのではないかと思いました。</p> <p>施策4の②について、あえて「授業の充実」としているのは、どういう意味があるのですか。</p> <p>最後に、施策の2、3、4の語尾について、「育成します」と「育てます」とがあるのですが、どちらかにそろえてもいいのではないかと思いました。</p> <p>1点目の「学校評価の公表」については、ご存じのとおり、学校評価</p>
---------------------------------	--

	<p>は義務付けられており、今後、認定こども園も進めていくという意味で、主な取り組みに書かせていただいております。学校評価の目的として、私たちは保護者を第一に考えておりますので、支援状況まで入れるのは難しいと考えます。</p> <p>施策2の①「特別な教科・道徳」については、誤記ですので修正をお願いします。正しくは「特別の教科・道徳」でございます。次期の学習指導要領にこの名称で挙がっており、これが教科名となります。</p> <p>施策3の主な取り組みの順番について、私たちとしては、学力向上プランをまず策定し、それにのっとっていろいろやっていくことで、最終的に授業改善が進むという流れで考えたのですけれども、ご意見のように、「授業改善の推進」を1番目にしてもいいかと思います。持ち帰つて考えさせていただきたいと思います。</p> <p>施策4の②「保健体育授業の充実」については、「保健体育」だけでは広すぎるの、まずは授業の充実ということで、「授業」を入れました。</p> <p>最後の、文末の統一のご意見については、次回、お知らせしたいと思います。</p>
委 員	施策4に、食育、体育が出ていますが、「德育」という言葉もどこかに入れられないでしょうか。先ほど人権の問題にも関係するのですが、ヒューマニティーとかヒューマニズムを育てるのが德育です。ここが全ての根っこになると思うので、德育こそ平戸の子どもに育んでほしいのです。
事務局	おっしゃるとおり、德育は大切で、德育の中心を担うのが道徳だと考えております。「德育」という文言をどこかに入れる方向で、検討させていただきたいと思います。
委 員	施策5の②に「地域人材を活用した教育の推進」とありますが、地域人材だけでなく、地域の文化財や施設等を活用するということも入れて

	<p>いただぐと、平戸の宝を子どもたちが知ことができて、いいのではな いかと思います。実際、平戸には、オランダ商館をはじめ、いろいろな 資料館等があるので、そういった所に出掛けるような仕組みをここに出 せば、実際の具体的な活動の中で意識してもらえるし、やるばい指標の 中にも、施設をどれだけ利用したかという形で具体的に出せるのではな いかと思いました。</p>
事務局	<p>私たちが考えている「地域人材を活用した教育の推進」というのは、 いろいろな知恵を持った方々のことも含めた、ごく身近にいる人を活用 するということです。施設を入れるとなると、例えば、近くのパン屋さ んとかお店等も含まれることになり、指標にするのは難しいと思われま す。ただ、主な取り組みの名称のところに、「地域人材や施設を」とい う形で入れ込むことは可能かと思いますので、検討させていただきたい と思います。</p>
委 員	<p>【平戸市のいま】の1つ目の○に「年々厳しい状況である」とあります が、です・ます調にそろえて、「状況です」としたほうがいいと思 います。</p> <p>施策2の②の「社会体育施設の維持・整備」について、「維持」よりも 「充実」のほうがいいのではないか。</p>
事務局	<p>1点目については、「です」に訂正します。</p> <p>2点目の「社会体育施設の維持・整備」については、施設の維持管理 という意味と、今、公共施設の集約ということで数の見直しが成されて いますので、そういった観点から「維持」という言葉が出てきたのだ と思います。「充実」に訂正したいと思います。</p>
委 員	<p>施策1の③に「巡回スポーツの推進」とありますが、巡回スポーツと はどういうものですか。</p>

事務局	外部からスポーツの第一人的な方や、団体に出るような方、有名な選手等を招へいして、保育所やいろいろな施設を巡回して、スポーツ教室を開くという事業で、幼少の頃からスポーツに慣れ親しませ、スポーツ人口を確保することを目的とした取り組みです。例えば、V・ファーレン長崎の選手に来ていただくといったことを想定しています。
委 員	<p>そうであれば、「巡回スポーツ教室」などと書いたほうが、初めて見た人には分かりやすいと思います。</p> <p>もう1つ、スポーツ医の世界では、競技スポーツと健康スポーツという2つの言葉しかなく、施策1にある「軽スポーツ」という言葉には違和感があります。施策2が競技スポーツを言っているので、施策1のほうは軽スポーツではなく、「健康スポーツ」にしたほうがいいように思いました。あえて「軽スポーツ」とされたのは、何か理由があるのでしようか。</p>
事務局	我々が考えているのは、例えば、障がいを持った方でもできるよう、ゲートボール等の体にあまり負担がかからないスポーツについて、軽スポーツという言い方で今までやってきておりますので、この名称でここに挙げております。体の維持管理とか、スポーツの楽しみを知っていただくという意味で、軽スポーツという言い方を我々は使用しているとご理解いただければと思います。
委 員	分かりました。
部会長	【平戸市の未来】という表題について、今の書き方では、ここに書かれていることは現状で、これから未来を想像していくというようにも取れますので、「10年後の平戸市」とか、「平戸市の未来像」、「未来の平戸市」というような表題にしたほうが、誤解がないように思いました。
委 員	今、平戸市民が一番困っているのは出産です。今、佐世保も、産婦人

	<p>科の先生の平均年齢が 70 歳くらいで、跡継ぎがいなくて困っているのですが、平戸市も産科医が少なく、出産をするために都会に行かなければいけないという状況なので、例えば、出産については保健センターに聞けば、佐世保等の病院を紹介してくれるといったような、出産の支援みたいなことがあれば助かると思います。ですから、プロジェクト 2 は、安心な出産・子育てといった項目を子育ての前に追加してもらえばと思いました。</p>
<p>事務局</p>	<p>産婦人科や産科医の確保については、明確には書いておりませんが、次の、くらしをまもるプロジェクトの基本施策 3 の「保健」の分野のところで、若干触れています。それに関わる施策も挙げておりますので、そこでお話しさせていただければと思います。</p>
<p>②基本プロジェクト 3 くらしをまもるプロジェクト</p>	<p>(事務局から基本プロジェクト 3 の説明)</p>
<p>委員</p>	<p>健康については、啓発の仕方についても、どこかに分かりやすく入れてもらえばと思います。</p> <p>また、施策 2 「子どもの健全な成長発達を支援する」の⑤の「歯科」について、学校現場が健診の結果をお知らせしても、親が動かないケースがあります。フッ素洗口をよくやっていますが、それ以前の問題があるところに対して、かなり粘り強い歯科の啓発が要ると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>1 点目の検診の啓発については、広報と併せて、全対象者に個人通知をしております。特定健診の受診率は県内でも上位のほうですが、がん検診は、個人通知をしているにもかかわらず、受診率が低い状況でありますので、その言葉を追加する方向で検討させていただきたいと思います。</p>

	<p>2点目の子どもの歯科については、今、全小学校でフッ化物洗口に取り組んでいただいておりますが、むし歯の有病率は県下でも高い状況にあります。このため、1歳半健診で歯科検診を行い、お母様たちに寄り添った形で指導をしたり、無料の歯科検診を迂回させたりしているのですが、ご意見のとおり、保護者の中には非常に熱心な方がおられる一方、あまり気にしない方もおられますので、今後とも、啓発活動に力を入れていかなければいけないと考えております。</p>
委 員	<p>施策2の⑤「歯科保健事業の充実」については、保護者の認識が非常に低いのは、周りを見て痛切に分かっています。いかに歯が大事かとか、8020運動という、80歳になったら歯を20本は残しましょうという運動を大きく取り上げていただくと、認識がもう少し変わるものではないかと思います。</p>
事務局	<p>今、保健センターでは、30代から75歳以上の方までを対象とした健康教室において、歯の健康づくりの指導に取り組んでいます。そのような地域に出向いての啓発活動や、各地域のまちづくり協議会の健康部会とタイアップして、健診や歯科について重点的な取り組みをしていきたいと思っております。</p>
委 員	<p>先ほど申し上げた安心な出産について、施策2の①に「妊娠婦・乳幼児健診、相談の充実」、③に「妊娠・出産期の経済的支援の実施」が挙げられています。妊娠・出産期は経済的支援も確かに大事ですが、それよりも、妊娠したけれども、どうすれば安全に出産までもっていけるだろうかという悩みなどを相談できる仕組みがないと、不安が強いだろうと思うので、①がより重要だと考えます。今、①は「妊娠婦・乳幼児」となっていますが、妊娠婦と乳幼児期を分けて、妊娠婦を独立した項目にしてもいいくらいだと思います。</p> <p>今後、平戸市に産婦人科の先生が来るというのは、恐らく難しいです。なぜなら、1人で婦人科をやろうという先生がいないからです。1</p>

	<p>人開業の産婦人科は休む暇もなく、産気づいたと連絡が入ると、どこにいても戻ってこなければならず、ビール1杯も飲めません。そういう環境であるため、もともといた先生もいなくなってしまいました。</p> <p>昔は平戸でも、1日に何人も産まれていました。それが、今では月に何人かしか産まれないという状況になってしまいました。そのため、助産師も雇っていません。そうなると、妊婦も平戸の病院は選ばず、佐世保の病院に行くようになりました。ところが、その先生も高齢になってきており、安易に佐世保に行けばいいとも考えられなくなりつつあります。</p> <p>ですから、妊産婦・乳幼児検診だけでなく、安心して妊娠・出産ができるような相談といったものを入れていただき、佐世保の病院と連携するような体制をつくっていただきたいと思います。確たる窓口があつて、妊産婦に対する助言をする仕組みがないと、平戸で安心して出産することはできないと思います。</p>
事務局	<p>相談の場については、保健センターが平成31年度から設置する計画をしています。プロジェクト2の、2-1-1の施策2の③の「子育て世代包括支援センター整備」というものがそれに当たり、妊娠、出産、子育て期にわたる支援を一人一人のプランを立てて、きめ細かく、継続的、包括的にやっていくという事業です。この事業の一段階目として、来年から、母子手帳の交付の折に、保健師が妊婦と面談をして、その方の不安とか出産に向けての話し合いをするという取り組みを始めます。</p> <p>産科医との連絡については、支援の連携を行っていますので、そういったところを有効活用してやっていきたいと思っております。</p> <p>3-1-1の主な取り組みの表記については、妊産婦と乳幼児を分けて、強調した形で書かせていただきたいと思います。</p>
委員	<p>施策1の「医療提供体制の充実を図る」の下の文章に「初期から二次・三次救急医療体制の充実」とありますが、平戸に三次救急を作ることは絶対無理です。二次救急に関しては、現在、平戸には二次救急にな</p>

	っている病院が4つあり、たらい回しもなく、近隣の市町村と比べて充実しています。主な取り組みの③に「高次医療機関との連携強化」とありますが、まさにここが非常に大事なのです。一次救急・二次救急をいかに三次救急につなぐかということです。ですから、文章の2行目は「初期から二次・三次救急医療体制の充実」というところを、「初期から二次救急医療体制の充実や、三次救急医療体制との連携」とすると、下の③とも合ってくると思います。
事務局	このように「二次・三次」と書いたのは、医療圏域という視点で、三次救急の総合病院までを想定して、このように書きました。しかし、市民には医療圏よりも市内での関わり方のほうが分かりやすいと思いますので、ご意見のように文言を修正して、平戸の取り組みとして書く形にしたいと思います。
委 員	かかりつけ医について市民はどの程度意識できているかといったデータはあるのですか。
事務局	ありません。広報等で、いつも安心して病院に行けるようにかかりつけ医を持ってくださいという周知はしておりますが、調査まではしていません。
委 員	将来的でいいのですが、市民の健康の意識を高める方策の1つとして、かかりつけ医を持っているか調べて、成果指標に入れたりするといいのではないかと思いました。
部会長	施策1の①の「質の高い医療サービスの提供」について、今も質は高いと思うので、少し違う表現にできないものかと私は感じたのですが、皆さんはどう思われますか。
委 員	あらためてそのように問われると、「サービス」という言い方は、確

	かにサービス業とも言えますが、少し抵抗があります。「市民のニーズに合った医療サービスの充実」といった表現でもいいかもしれません。
部会長	「質の高い」と「医療サービス」はアンバランスに感じました。医師会の先生方は非常に頑張っておられるので、そこに敬意を表した言葉を考えていただければありがたいです。
委 員	施策3の②の「住民主体の通いの場」というのは、どういうものですか。
事務局	例えば、介護予防等の関係で「平戸よかよか体操」という、各地区の老人クラブのメンバー等を対象にしたサークルがあるのですが、身近な地区の公民館等で実施されている、地域の中でいつまでも元気に過ごすための、サークル活動のようなものです。
部会長	住民が担い手・利用者という形で、公的ではなくインフォーマル的に、住民が主体になってやる、いわゆるサロンのような場です。よかよか体操や茶話会といったことをして、お互いに助け合いましょうということです。
委 員	戻りますが、先ほどの3-2-1の施策1の①の文言は、「上質な医療」等にしていただくといいのではないかと思います。 3-3-1の施策1について、タイトルが「地域包括ケアシステムを構築する」となっていますが、地域包括ケアシステムの構築は既に現在進行形で、10年とか5年先ではなく、すぐにでも構築しなければいけないものです。ですから、地域包括ケアシステムを構築し実践していくという書き方にすべきだと思います。
事務局	おっしゃるとおり、今、既に構築が進んでいる状況です。県のほうからは、地域包括ケアシステムのロードマップを作成するように言われて

	<p>おり、その中で、構築期が済んだら、次は充実期という流れになっています。「充実」といった文言に修正するなど、検討させていただきます。</p>
委 員	<p>施策3の③「地域を支えるサポーターの養成・育成」と④「生活支援コーディネーターの活動の充実」について、具体的に教えていただけないでしょうか。</p>
事務局	<p>「地域を支えるサポーターの養成・育成」は、近所における見守りサポーター養成・育成です。今、認知症が非常に社会問題となっています。そういう中で、地域で元気で暮らしていただくためには、地域における見守り等が非常に重要になってきます。そういう方たちを育成することです。</p> <p>「生活支援コーディネーターの活動の充実」については、高齢者、介護を必要とする方等が地域の中で生活をするためには、いろいろな地域の支えが非常に重要になってきます。そのコーディネーターの活動を充実させるということです。</p>
委 員	<p>生活支援コーディネーターの活動と民生委員の方の連携というのは、どのようになるのでしょうか。</p>
事務局	<p>民生委員は仕事が非常に複雑多岐で忙しく、いろいろな調査、活動、独居老人の見守り、生活保護の相談等があれば、それに対する意見書を書いてもらうなどしてもらっており、本当に助かっております。当然ながら、コーディネーターとの連携もやっていただくものと思っております。</p>
委 員	<p>今の意見に関連して、隣近所の方が気付けば一番いいのですけれども、一人の時に転んでがをされていたという話もよく聞きます。だから、もう一步踏み込んでいく何かがないといけないと感じています。単</p>

	<p>に養成しても、その人はずっと付いているわけではないので、何かあつたときに手助けできないこともあります。だから、そういうものを補う、強い支援体制が要るのではないかという気がします。隣近所の人間では、プライバシーがあるから来ないでくれと言われたら、それまでです。行政しかできない部分があるので、ここで明確に出していただきたいです。</p>
事務局	<p>少し検討させてもらいたいと思います。今の流れとしては、行政の力だけではどうしても手が回らないという現状があることから、地元業者と協働して見守りをしてもらったり、各地区のまちづくり運営協議会の福祉部会で、高齢者の見守りについても話してもらっています。そういうところと連携しながら、市として何ができるかも考えつつ、取り組んでいるところです。</p>
部会長	<p>私から2点、意見があります。まず、包括ケアシステムのところに、可能であれば、企業とか、子どもたちといったところへのアプローチもあっていいのかなと思いました。地域包括ケアですから全体でということを、国は言っております。この業界では福祉教育という言葉をよく使うのですが、それでは分かりにくいので、企業、関係機関、学校等への啓発とか、推進といった形で入れてはどうかと思いました。</p> <p>もう1点は、雇用の問題です。8年後には定年が65歳まで上がりますが、高齢者の雇用について、高齢者雇用を促進しましょうみたいな記述がどこかにあるといいと思いました。これは、回答は要りませんので、検討してください。</p> <p>最近、法律以外の障害は「障がい」と表記するような流れになっていますので、「害」は平仮名で書いたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>次に、施策1について、先ほどと同様に、企業や学校への啓発とか理解促進といったことを入れるといいのかなと思いました。</p> <p>また、今、障害分野は、バリアフリーよりもユニバーサルデザインと</p>

	いう言葉のほうが多く使います。ユニバーサルデザインとは、障害者に限らず全体を考えたデザインという意味です。可能であれば、そういう表現もどこかに入れるといいのではないかと思いました。
事務局	<p>おっしゃるとおり、「ユニバーサルデザイン」は今の主流の言葉ですので、検討させていただきたいと思います。</p> <p>「障がい」の表記についても、おっしゃるとおりです。今、障がいのほうの計画も作成しております、そちらでは平仮名を使った表記にしておりますので、こちらもそのように修正いたします。</p>
事務局	「ユニバーサルデザイン」については、基本プロジェクト4「まちをつくるプロジェクト」の、第3節の基本施策4「良好な都市環境を形成する」の中で、公共施設等をユニバーサルデザインに基づいて整備・推進しますというような文言が入っていますが、こここの福祉のところにも、あらためて入れたほうがいいでしょうか。
部会長	今は、障がいに限らず、母子、高齢者、元気な人もみんな、そして、建物も、心も含めて、ユニバーサルデザインでいきましょうというのが世の流れです。ですから、障がいや高齢のところでも、そういった表現を入れるといいのではないかと思いました。
委 員	施策1の「社会参加、地域交流を促進する」の下の文章について、「障害のある人もない人もわけ隔てられることなく、一人ひとりが個人として大切にされ、自分らしい自立した生活を支援し、社会参加の機会を充実します」となっていますが、つながりが悪いように思いますので、「自立した生活を支援し」のところを「自立した生活を送られるよう」などとしてはどうでしょうか。
事務局	修正したいと思います。

部会長	それと、「分け隔てられることなく」は削除したほうがいいと思います。
委 員	私もそう思います。障がいのある人について、腫れ物に触るような扱い方をするのではなく、普通に「障がいのある人もない人も」でいい時代になってきていると思います。
部会長	それと、その後の「大切にされ」は、「尊重され」のほうがいいと思います。人権と関わるところは表現が難しいですが、障がいを持った方に対して身構えたりすることなく、誰もが普通に接する社会を目指していきたいと思っています。
委 員	【平戸市のいま】の下の文章が長過ぎて読みづらいので、途中で区切って2文に分けたほうがいいと思います。
部会長	今の点については、次回までに検討していただければと思います。 ここは今策定中の地域福祉計画でも網羅されると思います。大きな柱はこのような形で進めたいと思います。
	会議終了